

# SEA LIFE NEWS

TOKYO SEA LIFE PARK



葛西臨海水族園

## ハシキンメ

【英名】big roughy

【学名】*Gephyroberyx japonicus*

大きくごつごつとした頭が印象的なキンメダイ目ヒウチダイ科の深海魚で、水深700mまでの海底付近に生息しています。名前の“キンメ”はキンメダイから来ています。キンメダイと同様にきれいな赤い体色をしています。泳ぎ方は少し異なります。キンメダイは移動性が高く、羽ばたくように頻繁に胸ビレを動かしますが、ハシキンメは中層でじっと浮いていることが多いようです。エサへの勢いは強く、水槽でも大きな口を開けながらエサに突進していく様子が見られるかもしれません。底曳網漁で漁獲されることがあり、クセのない白身でとてもおいしい魚ですが、産地で消費されることがほとんどです。展示中の個体も駿河湾の底曳網漁で採集されました。（教育普及係 市川 啓介）

## CONTENTS

### SEA LIFE TOPICS

- 伸ばして食べるマトウダイ
- 深海と関わりが深いニホンウナギ

### なぎさNEWS

- 「西なぎさ」でイケカツオの幼魚を発見!
- なぎさで探そう! こんな生き物「スズガモ」

### 水族園のもう一つの顔

- 「大洋の航海者 サメ」水槽 展示を変更中!
- はるばるやってきたキンメダイ

### TSLP LATEST



Vol.20 No.1 2022

FEBRUARY

通巻

102

# SEA LIFE TOPICS

黒斑模様が的に見えることからマトウダイとも

## 伸ばして食べるマトウダイ

体の中央に目立つ黒斑模様があるマトウダイ。冬の時期にはスキューバダイビングで出会えることもあります。水深50～400mほどが生息域とされており、深海生物といえます。まず特徴的なのは、すべるような泳ぎ方です。泳ぎでおもにつきかうヒレは背ビレと臀ビレで、尾ビレはほとんど動かしません。そのため、体が左右にぶれず、すーっと滑るように見えるのです。そんなマトウダイはエサを食べるとき、獲物に気づかれないうちと近づいていきます。そして、ある距離まで近づくと口を素早く伸ばし、丸飲みにしてしまいます。この口も特徴的で、通常は折りたたまれていますが、口を開けると大きく前へ伸びるつくりになっているのです。食べる瞬間を観察することは難しいですが、あくびのように口を開けることもあるため、運が良ければ実際に口が伸びる様子をご覧いただける

かもしれません。ちなみに、獲物を追うマトウダイを観察していると、獲物のすぐ目の前まで接近しても食べないことがよくあります。かれらなりのタイミングがあるのでしょうか、観察していて毎回「今でしょ!？」と思ってしまう。(飼育展示係 幅 祥太)



check! マトウダイがエサを食べる様子は公式 YouTube チャンネルでご覧いただけます。チャンネル登録をお願いします!



口は最大、体長の約20%の長さまで伸びる

## 深海と関わりが深いニホンウナギ

2022年1月より「東京湾の漁業」水槽でニホンウナギの展示をはじめました。ウナギといえば川の魚というイメージが強いかもしれませんが、その一生を追うと、海、それも深海との関わりが見えてきます。

川で成長し、成熟したニホンウナギは海へと下り、長い距離を泳いで日本から2000km以上も離れた南の海の深海で産卵します。生まれた子どものウナギは「レプトセファルス」とよばれ、透明で柳の葉のような平たい形をしています。ほとんど泳ぐ力はありませんが、この形が海流によって移動するのに役立っているようです。ふ化後半年ほどすると、レプトセファルスより細く、長さも短い「シラスウナギ」に変態します。このようにニホンウナギは日本から遠く離れた場所でふ化し、成長しながら長い距離を移動して河口や河川にやって来るのです。

さて、わたしたちが食べているウナギの多くは、河口にやってきたシラスウナギを採って養鰻場で成長させたものです。近年は環境の変化や乱獲などによりシラスウナギが減少し、ニホンウナギの絶滅が心配されています。これまでは飼育下でウナギの卵をふ化させ育てることは難しいと考えられてきました。しかし、2010年には水産総合研究センター（現在の国立研究開発法人 水産研究・教育機構）が世界で初めてニホンウナギの卵をふ化させて育て、それを親として卵を得てまた育てる「完全養殖」に成功しました。安定して生産・供給するための研究事業が続けられており、水族園も2019年よりこの事業に協力しています。展示しているニホンウナギは、水産研究・教育機構で育てた「完全養殖ウナギ」です。これを機会に、ウナギの未来について考えていただけますと幸いです。(飼育展示係 中沢 純一)



レプトセファルス (標本)

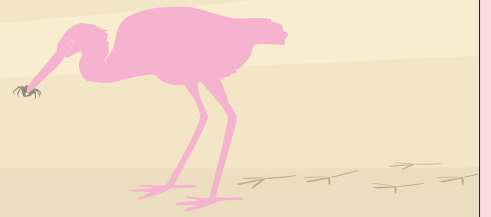


シラスウナギは底生生活にともない、体が黒ずんでいく



石の間から顔を出す成体

# なぎさ NEWS



## 「西なぎさ」でイケカツオの幼魚を発見!

2021年9月29日、「西なぎさ」で地曳網をひいたところ、全長6cmほどのイケカツオの幼魚が網に入りました。イケカツオはおもに太平洋の外洋に面した沿岸からやや沖合に生息し、成長すると50cm以上になります。小さいうちは内湾や汽水域にもあらわれますが、東京湾の湾奥で見つかることはとても稀で、水族園の調査や採集ではなんと今回が初記録! 採集された個体は、現在「東京の海」エリア2階にある「葛西の海2」水槽で展示しています。

“カツオ”と名前がついていますが、カツオのなかまではなくアジのなかまです。多くのアジのなかまに見られるトゲのあるうろこ(稜鱗)がなく、銀色に光り輝く滑らかな体表がなんとも印象的。水槽にゴカイのみじん切り等をいれると、一瞬で反応して食いつく俊敏さにも驚きました。また、幼魚には他の魚のうろこをはがして食べる習性があるそうです。

水族園では20年以上前から「西なぎさ」に生息する生き物の調査を続けていますが、いまだに初登場の魚がいます。さて、次の調査ではどんな生き物に出会えるか…。毎回、とても楽しみにしています! (飼育展示係 宮崎 寧子)



光を反射して体表が銀色に輝く

### なぎさで探そう! こんな生き物

見つけやすさ ★★★★★ ☆

サイズ 全長45cm

見つけるコツ

冬の「西なぎさ」にきたら沖の方を見てみよう。水面にぷかぷか浮かぶたくさんの黒い鳥「スズガモ」が見えるかも。この季節のスズガモはメスとオスで羽の色が少し違う。浮かんでいるところを双眼鏡で見るとよくわかるよ。メスは体全体が茶色っぽいけれど、オスは体の横と背中が白いんだ。

### スズガモ(カモ科)

#### ■スズガモはこんな生き物

冬になると日本の干潟にやってくる渡り鳥。「西なぎさ」のまわりには多いときに2万羽もくるといわれているよ。昼間は水面に浮かんで休んでいることが多いけれど、エサを探するときには水の中にもぐるんだ。砂や泥の中にかくれているアサリやジジミなどの二枚貝を見つけると、かたい貝殻ごと丸のみにして食べてしまう。でも大丈夫。鳥の体の中には「砂のう」という場所があって、スズガモはそこで貝殻を割って中身だけを消化することができるんだ! (教育普及係 田中 隼人)



こんなにたくさんやってくるよ! /

# 水族園 のもう一つの顔

## 「大洋の航海者 サメ」水槽 展示を変更中！ はるばるやってきたキンメダイ

水族園のガラスドームから館内に入って最初の水槽「大洋の航海者 サメ」(以下サメ水槽)は、開園以来アカシュモクザメをはじめとしたサメやエイを展示してきました。アカシュモクザメは都立動物園・水族園が希少動物の保護・繁殖をはかる第2次ズーストック計画(2018年策定)の対象種になっています。サメ水槽は水量200tという比較的大きな水槽ですが、これまでアカシュモクザメの繁殖に成功したことはなく、もっと大きな水槽で飼育する必要があると考えられました。そこで水族園で最大の水量2200tの「大洋の航海者 マグロ」水槽の擬岩側に他のサメやエイと一緒に移動し、群れで展示していたマイワシは、同様にイワシの群れを展示している水族館に分譲しました。2022年2月現在、サメ水槽は閉鎖していますが、水槽の生き物はこのようにして今も別の場所で展示を続けています。そして生き物がなくなったサメ水槽は、新水族園へのリニューアルに向けての展示開発として、今までと全く異なる新しい展示に生まれ変わる予定です。新展示のオープンは少し先になりますが、どんな展示になるか期待していただければと思います。(飼育展示係 木船 崇司)



眼を傷つけないように工夫した特製のタンカでアカシュモクザメを移動する

水族園の「深海の生物」コーナーで展示をしているキンメダイ。深海魚であるキンメダイの収集は簡単ではないのですが、今回、高知県室戸市から新たなルートで集めたキンメダイには漁師さんのこだわりが詰まっています。

今までのキンメダイ採集は、日中に水深200mより深い場所から釣りあげていたため、水圧や光の変化によるダメージを少なからず受けていました。キンメダイは昼に深海にいて、夜になるとエサを求めて栄養豊富な浅場に行く日周鉛直移動をします。いっぽう今回の個体は夜に水深80mで採集されており、昼間に深海から釣りあげた個体より水圧の変化によるダメージを受けていません。また、暗いうちに現地の飼育水槽に入れたことで強い太陽光にもさらされおらず、眼へのダメージも少なくすんでいます。室戸から水族園までは約750km。ここからは水族園スタッフが活魚車に乗せてキンメダイを運びます。水槽の照明やエアレーションを微調整してキンメダイにとって最適な状態を保ち、約15時間の運転の末、全個体無事に水槽へ入れることができました。搬入後もすこぶる状態がよさそうです。こだわりが詰まったキンメダイ、ぜひご覧ください。(調査係 松村 哲)



水槽で泳ぐキンメダイの群れ

## TSLP LATEST

TOKYO SEA LIFE PARK

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の拡大防止のため、2022年1月11日より臨時休園しています。

- 11/24 多摩動物公園よりクロツラヘラサギ2羽を搬入
- 11/26-28 高知県室戸よりキンメダイを搬入
- 12/12 講演会「ベンギンの秘密にせまる!水族園で取り組む最新の研究」を実施
- 12/25 YouTube年末生配信「かざりん放送2021なにあった?」を実施
- 1/2 YouTube配信「Wow! すてきないきものたち」を実施
- 1/2-3 お正月 干支の動物セルフ観察シートを配布
- 1/6 8/3生まれのオウサマベンギンの名前が「スウ」に決定
- 1/8 市立しものせき水族館「海響館」へミナミイワトビベンギン3羽を搬入
- 1/13 「大洋の航海者 サメ」水槽を閉鎖



TOKYO  
SEA LIFE  
PARK

### 編集後記

海の表層の水温が下がるこの時期は深海生物の採集シーズン。で、今号は深海生物がテーマです。深海の定義は水深200mより深い海域とされていますが、じつはクロマグロも200m以深に頻りに潜ることが、研究で明らかになっています。同様にエサを求め、かなりの水深を鉛直移動する生き物は珍しくありません。生き物の意外性にはいつも驚かされます。(天野)

### SEA LIFE NEWS 通巻 102

Vol.20 No.1 2022 FEBRUARY 2月1日発行 (次号は2022年4月発行予定)

編集 葛西臨海水族園  
〒134-8587 東京都江戸川区臨海町 6-2-3  
TEL.03-3869-5152  
www.tokyo-zoo.net/

発行 公益財団法人東京動物園協会  
〒110-0008 東京都台東区池之端 2-9-7  
池之端日殖ビル7階  
TEL.03-3828-2143

